

生涯学習やまがた



友の会の皆さん



バードカービング教室



鳥海山で早春の彩探し



シマヘビを捕獲!



最上川河口野鳥観察会



草木染和柄エコバッグ作り

CONTENTS

- ② 特集
学校を核とした地域づくり、地域とともにある学校
～学校と地域の連携・協働 (廣瀬 隆人氏)
- ⑤ あなた やまがた たからびと⑨
清原純哉さん (庄内町)
- ⑥ 令和6年度山形県生涯学習センター事業紹介
- ⑦ このまちに注目!
東根民話の会／白鷹町文化交流センターあゆーむ
- ⑧ Information
高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業生きがい支え合いフォーラム、
庭園と呈茶を楽しむ会、第11回洗心庵写真コンテスト、社会教育関係職員スキルアップセミナー、
令和6年度「山形学」講座、メールマガジン読者募集中!

鳥海イヌワシみらい館 友の会

希少な猛禽類を対象に調査研究、保護推進、普及啓発を行う鳥海イヌワシみらい館。その各種イベントで運営ボランティアとして活躍するのが、2020年に結成した友の会。現在30名、10代～70代と年代も知識も幅広いメンバーは、実はみらい館イベントの熱心なリピーターの方々。学ぶ側から伝える側へと、イベント参加者が自然について楽しく学べるサポートや見守りを心がけて活動しています!

→関連記事はP.5へ

学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことができるコミュニティ・スクール。そして地域全体で子どもたちの学びや成長を支える地域学校協働活動。学校と地域の連携・協働について廣瀬隆人氏より寄稿していただきました。

学校を核とした地域づくり、地域とともにある学校、学校と地域の連携・協働

一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事 廣瀬隆人氏

「コミュニティ・スクール」という言葉で学校、地域社会に広く浸透しつつある施策をどのように理解したらよいのだろうか。2023年度までに全国の6割弱の小中学校に「学校運営協議会」という協議体の設置が進んでいる。同時並行で「地域学校協働本部」「地域学校協働活動推進員」など地域側でも協議体の設置が進められている。急速な高齢化と人口減少が進行し、頼りにしていた60歳以降の退職予定者集団は地域づくりの担い手ではなく、再任用、再雇用として勤務を継続し、地域に戻ることはなかった。60歳台は最早、現役世代のカテゴリーとして捉え直す必要がある。こうした現状の中で、学校を核とした地域づくり、地域とともにある学校づくりをどのように捉えたら良いだろうか。地方創生の

1 「学校を核とした地域づくり」と「地域とともにある学校」事業の本質は何か

この施策の前提として、注目しておかねばならないのが、「社会に開かれた教育課程」の基本的な考え方である。これまでも教育課程は社会や産業構造の変化に対応して教育の在り方を変化させていく指針としての意味が大きい。平成28年の中教審¹でも「社会とのつながりの中で学校教育を展開していくことは、我が国が社会的な課題を乗り越え、未来を

切り拓いていくための大きな原動力ともなる。特に、子供たちが、身近な地域を含めた社会とのつながりの中で学び、自らの人生や社会をよりよく変えていくことができるという実感を持つことは、困難を乗り越え、未来に向けて進む希望と力を与えることにつながる」と提言されている。つまり学力を社会との関係の中でとらえているのである。加えて社会参画を前提にした学習方法として「主体的・対話的で深い学び」が求められ、子ども同士の対話や協働、教職員や地域の人との対話、学習活動のふりかえりなどを通じて展開されるとい

う。さらに答申で重要な観点として列記されている項目は、①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。②これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。③教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校

内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること、とある。どの項目も社会との関係に着目しており、「よりよい社会」「社会の活力」という言葉にねらいが見えてくる。

また、平成26年「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（内閣府）の中で「学校を核として、学校と地域が連携・協働した取組や地域資源を生かした教育活動を進めるとともに、郷土の歴史や人物等を探り上げた地域教材を用い地域を理解し愛着を深め

廣瀬 隆人氏 プロフィール



専門は、地域づくり、地域学、学校と地域の連携、地域福祉、社会教育など。北海道生まれ。国立教育会館社会教育研修所専門職員、宇都宮大学教授などを歴任。宇都宮市在住。長年、山形県内の社会教育関係職員研修ほか様々な研修の講師を務める。山形県生涯学習センター「山形学」アドバイザー、山形県地域コミュニティ支援アドバイザー。

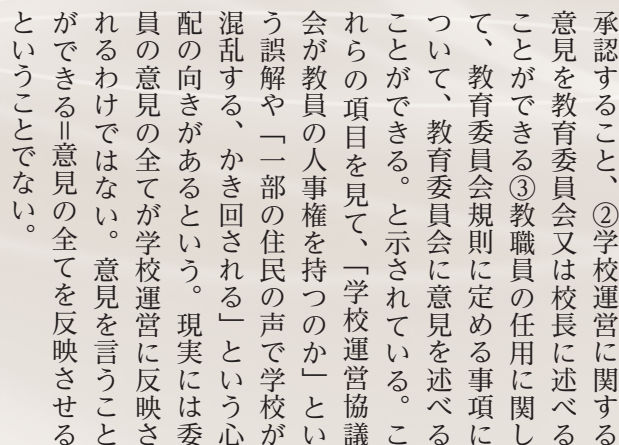
これらを見ていくと、学校を核とした地域づくり、地域とともにある学校づくりの本質はまさにこのよりよい社会（地域）づくりと社会（地域）の活力づくりにあると理解することができる。また、前年の平成27年の中教審²でも「地方創生の観点からも、学校という場を核とした連携・協働の取組を通じて、子供たちに地域への愛着や誇りを育み、地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「学校を核とした地域づくり」を推進していくことが重要である」とされている。

この施策の本質は「学校を核とした地域づくり」とそのための「地域とともにある学校づくり」にある。

2 学校を核とした地域づくり、地域とともにある学校づくりへの不安と誤解

この会議は学校の運営とそのため
に必要な支援について協議すること

になるが、文部科学省は設置当初から「熟議」という言葉を使用しているように議事の内容について細かく規定するのではなく、方法論に強いこだわりを見せている。どのようなテーマで議論するのかについては、基本的には各協議会に任せられているのである。学校運営協議会については、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第47条の5で、①校長が作成する学校運営の基本方針を

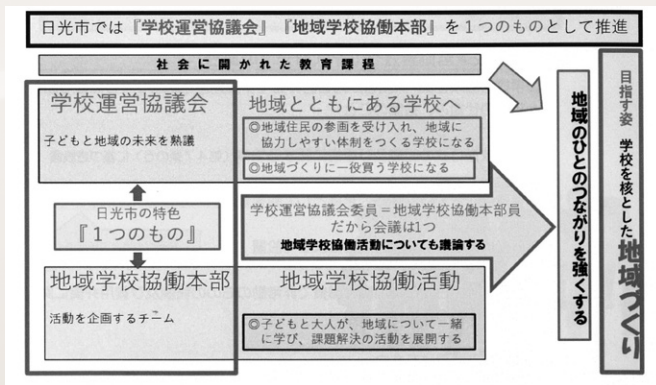


それよりも協議会では、委員同士、あるいは委員と教員のつながりをつ

地域学校協働活動を推進する体制として、平成27年の中教審答申で提

くるための丁寧な自己紹介や情報交換や教職員との懇談の機会を設けたりするなどのつながりづくりに注力していきたい。学校運営方針はともかくも、延々と学校行事や学校評価の報告など一方向的な学校側の説明の後に「何か質問はありませんか」というような会議にしてしまえば、それは既に教員だけでなく委員側にもストレスを与え形骸化への道に進むことになる。

どんなに学校運営に関する意見を言っても、その意見のとおりには学校運営がなされるということではなく、協議の場であるということである。様々な意見交換を可能にするように配慮されていると考えることができる。運営委員が自由に意見交換することは保証されねばならないが、そのことによって、学校が恣意的に運営されるようなことがあれば、公教育としてふさわしいものではない。参画ということは、自分たちは何をするのかという提案をして、教育責任を果たすということである。どんなに地域の人々の意見を聴くとしても学校教育の主体は依然として教員であり、学校という組織なのである。



出典：『学校を核とした地域づくりははじめの一步 学校運営協議会と地域学校協働活動～日光市はどう進めているのか～』

言されたのが「地域学校協働本部」である。各地の実践を見ていくと、自治体に一つの本部を設置しているケース（山形県小国町）があり、これは小規模な自治体に見られる。栃木県日光市では学校運営協議会と本部が一体化しており、地域学校協働活動推進員が事業の実施を担当する流れになっている。同じく栃木県那須塩原市では、公民館を会場に行う、小・中学校の推進員や関係教員、関係者によって構成される年2回の会議のことを地域学校協働本部であると説明している。事務局は公民館が担っているが、地域学校協働活動

推進員は市民が担っている。

文部科学省の手引などでは、学校運営協議会と地域学校協働活動の「一体的推進」を推奨しているが、急速に高齢化、人口減少が進行する地域や自治体では、類似する2つの協議体を立ち上げることは、都市部では可能であっても甚だ困難であると言わざるを得ない。

地域学校協働活動はしばしば何をしたら良いのかという質問を受けることがある。文部科学省の解説では「地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動」と説明している。これでは何をして良いのかわからないということなのである。しかし、この場合も文部科学省は方法について詳述しているが、具体的には何をするのかは自治体や当該本部に一任されているものと解釈することができる。文部科学省の説明に該当する事業は既に公民館事業、学校の特別活動、PTA事業、子ども会育成会事業、地域の団体の事業などで行われていると理解することができる。少子化が急速に

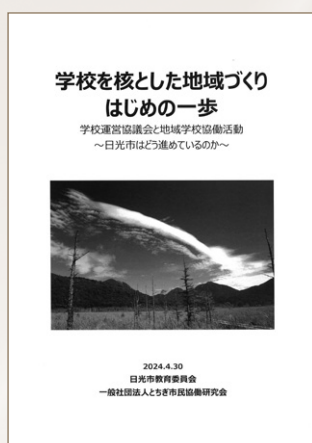
進行する地域で新たに子どもを取り込んだ事業を実施できるのだろうか、新型コロナウイルス感染症で事業が縮小される中で新規の事業を立ち上げる選択肢はあるだろうか、それよりも既存の事業を合わせて1本化したり、既存の事業に学校や子どもを関与させるしくみを開発したりするなど「多様な主体の連携・協働」に舵を切る方が現実的であろう。

現在実施している事業を「地域学校協働活動」にするという視点も必要であろう。具体的にどのような要素が考えられるであろうか。①多様な主体との協働②様々な関係者が係わっていること。③地域性を出すこと④地域の芸能、歴史、祭り、産業、食物など、地域の特性が表現している要素を取り込み、地域に対する愛着を深めること。⑤地域の良質な大人と出会い対話し、そこから地域の人のつながりを感じ取る。などが考えられよう。

3 まとめ

地域学校協働活動や学校運営協議会は、学校が忙しくて困っているから、お手伝いする応援団になることが目的ではない。地域住民が自分たちで、地域づくりを進めるために、

学校に集まって、地域の未来を話し合い、どんな子どもに育ってほしいのかを先生たちと一緒に考える習慣を身につけるのが、学校運営協議会である。より良い学校づくりの経験を生かして、より良い地域づくりを進める。そのために学校運営協議会での熟議（熟慮と討議）を行うことになる。だれかがなんとかしてくれるのを待つのではなく、自分たちの地域のことは、自分たちで学び、気づき、自ら行動するようにすることだ。そのためには、子どもたちと一緒に地域を学び、体験し、地域への愛着や誇りを育み、地域の未来を担う人材を育成しながら、地域住民のつながりを強めていくことが必要である。これが、学校を核とした地域づくりである。



参考資料
『学校を核とした地域づくりははじめの一步 学校運営協議会と地域学校協働活動～日光市はどう進めているのか～』2024

あなた やまがた たからびと

きよはらじゅん や

interview 清原純哉さん 鳥海イヌワシみらい館友の会会員(庄内町)

県内で自ら学び続け、いきいきと活躍している方を「たからびと」として、インタビュー形式でご紹介します。今回は小学生の頃から鳥海イヌワシみらい館（以下、「みらい館」という。）に通い、鳥好きが高じて、友の会結成以来、中学1年生から会員としてボランティア活動をしている高校3年生の清原さんにお話を伺います。



大好きな鳥の製展示。鳥の祖先の爬虫類にも興味があり勉強中の清原さん。自然観察会の散策中にシマヘビを素手で捕まえる一面も。本人曰く「ヘビは道具を持っていないから、こちらも正々堂々と素手で捕ります！」（表紙写真参照）

— みらい館はどんな場所？

子どもから大人まで年齢を問わずに、鳥、特に猛禽類について楽しく学べる場所です。小学3年生から通っていて、鳥好きの僕にはありがたい場所。一番の思い出は、小学5年生の時に参加した1泊2日のイヌワシ観察会です。ほぼ大人だけで最初はなじみませんでした。1日目のまとめの時間に大人からたくさん話しかけてもらって打ち解けました。初めての家族以外の大人との長時間の関わりで、その時の緊張感ごと、良い思い出になっています。実は、留鳥のイヌワシは、推定個体数が日本で500羽程で県内でも生息数はとても少ないです。だから、僕もまだ2回しか見たことがなくて、見られたら本当にラッキーです。イヌワシに限らず、観察に行つて見られる鳥の姿は遠いので、近くでその姿が見られるはく製展示は、みらい館の中でも一番好きな場所です。

— 友の会の活動での学び

友の会には、参加することで知識やコミュニケーション能力の面で、より成長できると思い入会しました。学校行事や部活が忙しくて参加できない時期もありましたが、友の会の活動で講師の説明をしっかりと聞くことが増えたので、学校の授業も集中して聞けるようになりました。逆に学校の授業で学んだことが活動で出てきて復習や応用にもなっていると思います。

活動では、主にイベントスタッフとして、講師の目の届かないところで、参加者の安全の見守りや双眼鏡の使い方、工作指導など、よりイベントを楽しめるよう補助しています。友の会の皆さんは、鳥好きのほか、植物や昆虫、自然全般に詳しい人もいて、面白くて人柄の良い方ばかりです。年上の方から、自分の知らないことを教えてもらえるので、毎回とても楽しいです。それから、子どもたちが参加するイベントに関わることも多いのですが、ここでの体験を楽しい思い出として持ち帰ってほしいと思っています。だから、どうやって説明したら子どもたちが理解しやすいか考えたり、子どもたちが退屈していたら、話しかけに行ったり、外に連れ出して一緒に虫を捕まえてみたり、状況を考えて行動するようにしています。職員さんから、こういうところが良かった、こういうときはこうするといひよ、とアドバイスをもらえるとう上心が湧きます。それに、参加者の方から感謝されると、また頑張ろうと思います。

今は、この活動に関わっている喜びと、みらい館に貢献できる嬉しさもあり、少しでも力になればと思っています。若い世代が地域の活動に関わると、大人だけの意見で物事が進むこ

とが少なくなり、もつと若い世代にも関心を持つてもらえるようになると思うので、とても意味があることだと思っています。

— これからの夢

僕の家周りには田んぼが広がっていて、沼もあって、たくさんの鳥や生き物がいます。趣味は身の回りの生態観察と調査。自分が今いる環境はとても充実していて、都会では味わえない楽しさがあります！ 将来は、みらい館でイヌワシの保全業務に携わられていた長船裕紀さんのような、鳥の研究や調査に従事する人になりたいです。長船さんは、小学生の時に初めて参加した観察会でも講師をされていた方で、僕が鳥に興味を持つきっかけになった方です。鳥は生態系において重要な位置づけで、鳥の中でもイヌワシや鷹が頂点。減少すると害獣が増えて生態系のバランスが崩れてしまうんです。日本の鳥は年々個体数が減っているんです。それを少しでも食い止めたいて考えています。鳥を減らさないよう保全に取り組む鳥類学者になるのが今の目標で、そのために、まずは大学で生物学を学びたいと思っています！

みらい館に遊びに来てね！



鳥海イヌワシみらい館のマスコットキャラクターのワッシーくん



鳥海イヌワシみらい館のHPはこちら
<https://www.raptor-c.com/>

山形県生涯学習センター事業紹介

あなた やまがた たからびと

今年はここに注目！

～1人ひとりの県民がいきいきと活躍する
「生涯学習社会やまがた」を目指して～

学習情報・機会の提供

山形県生涯学習情報提供システム
やまがたマナビィnet

山形県生涯学習センターでは生涯学習情報の発信を行っています。
下の情報ボタンをクリックして、各情報画面へ移動してください。

- 講座・イベント
県内の様々な講座やイベントを掲載
[検索ページへ]
- 講座・指導者
県内で活躍している講座・指導者情報
[検索ページへ]
- 団体・グループ
県外を拠点に活動している団体・グループ情報
[検索ページへ]

▲山形県生涯学習情報提供システム「やまがたマナビィnet」

学習情報収集・提供事業

- 「やまがたマナビィnet」

長寿社会づくり推進事業

「ふるさと塾」推進事業

広報紙発行事業

- 広報紙「生涯学習やまがた」発刊

「やまがたマナビィnet」では県内の講座・イベント、講師・指導者、団体・グループ、施設等の情報提供を行っています。地域・学校・家庭いずれの場でもご活用いただける情報が満載です！



▲昨年度の「山形学」講座現地学習の様子。今年度の「山形学」講座は山形の農業の楽しさや魅力を考えていきます！

「山形学」推進事業

- 「山形学」講座
- 『遊学館ブックス』の発刊

山形県地域づくり実践交流集会

平成2年の生涯学習センター開設時より中核事業として継続している「山形学」。毎年、多様な切り口から山形を学びます。今年度より3年間、山形の農業をテーマに講座を開催します！

公益財団法人山形県生涯学習文化財団
令和6年度青少年地域学習活動助成金

CREATE YOUR FUTURE
あなたが創る
やまがたの未来

■助成額 最大5万円
・助成対象経費または5万円のいずれか低い額

■対象事業
・生涯学習の、自主的で先進的な地域学習や地域づくり活動
・生涯学習の皆さんが地域と協力して行う地域づくり活動 を応援します！

※助成する団体が高等学校の場合は、特別活動（ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事）および課外活動として実施されるものを対象とします。
「教材」や「教員」の確保の時間、で実施されるものは対象となりません。

▲県民の皆さんや高校生の地域づくり活動を支援しています！

生涯学習支援事業

- やまがた地域創生事業
- 青少年地域学習活動支援事業
- 特色ある生涯学習活動支援事業ほか

「青少年地域学習活動支援事業」では高校生が取り組む地域活動や山形の課題解決につながる活動に必要な経費の一部を助成しています。高校生の無限のパワーを地域に役立てるお手伝いをします！

学習活動支援者の育成



▲昨年度の高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業

生涯学習関係職員研修事業

- パワーアップセミナー
- スキルアップセミナー

高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業

- 入門講座（フォーラム）
- 生活支援コーディネータースキルアップ研修（初任研修／専門研修）
- アドバイザー派遣による伴走型支援（市町村対象）

シニア地域実践活動支援事業

今年度は地域の高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備に関わる生活支援コーディネーターや市町村職員の初任者研修の他に、中堅者を対象に、さまざまな課題に対して現場主導で素早く修正を重ねて課題を改善もしくは解決していく力をつけるための研修会と成果報告会を開催します。

学習成果の活用



▲昨年度の「山形県地域づくり実践交流集会」

高年齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業【再掲】

- フォローアップ研修会

山形県地域づくり実践交流集会【再掲】

地域づくりに取り組む民間団体、社会教育団体や教育関係者、学生や地域づくりに興味のある方が集まり、地域づくりの活用事例や手法を学び合います！

このまちに注目！

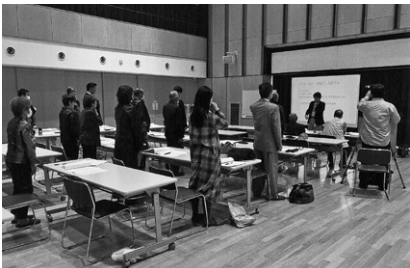
地域の取り組みを
紹介します

東根市

東根民話の会
民話の英語本を活用した地域づくり講座

『方言を活かした 民話の英語語り』

■事業内容■



令和5年10月21日に東根公民館で東根民話の会が主催し「民話の英語本を活用した地域づくり講座」を開催しました。今

回は民話や英語語りに興味のある方で、高校生以上を対象とし、講師には、東根市出身で英語教育に携わっている先生をお迎えしました。民話語りは大きな声で表情豊かに語ること、特に方言が英語の発音にとっても効果があることを学びました。例えば「んだ、んだ」の「ん」の音が日常の英会話で頻繁に出てくるとのことです。

■ここが大変■

目的は、小中高生の方言を活かした英語語りの習得ですが、小学校では英語の授業が始まって間もないため、授業以外の取り組みは先生たちの負担増大となり、学校の協力がなかなか難しかったことです。

■ここがうまくいった■

地元の民話や伝説を英語に訳して制作した紙芝居を教材にしたことで、語り方や表現の仕方がわかりやすくなりました。また、二人ペアで交互に語る手法が人数でも応用でき、楽しく実践できました。

参加者Voice

方言や訛りが英語の発音に活かせるならそれを習得し、民話の紙芝居を英語で語ることに挑戦してみたい。(70代 男性)

白鷹町

白鷹町文化交流センターあゆーむ
白鷹町の民具×農具ミュージック展

『役目を終えた民具を 再びハレの舞台へ』

■事業内容■



当館と白鷹町歴史民俗資料館は、「民具の音」に注目して、既に役目を終えた民具が再び脚光を浴びる場をつくり、その魅力を幅広い年代層へ伝えられるようにと活動してきました。今回は展覧会ということで、白鷹町の昔の生活の一端を紹介する民具展示と、サク

ス奏者でもある「岡 淳 & 音楽水車プロジェクト」による農具・民具から作られたからくり演奏装置や、たたいて音が出せる鍬や樽など、実際に「民具の音」を体験できる展示構成としました。また、期間中に岡氏をはじめとするプロミュージシャンによる「農具ミュージックライブ」も開催し、ご好評をいただきました。

■ここが大変■

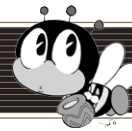
地元の民具を使った新たな楽器制作の中で、トライ＆エラーが常にあり、どんな状態が最良かを日々模索しました。また、「民具を使用した楽器」と「民俗資料としての民具」のバランスに気を使いました。

■ここがうまくいった■

事業を通して、なるべく多くの方や団体に関わっていただくことができました。また、コンサートを行うことで、民具の動きや形状の面白さや美しさを、民具を使っていた世代にも、知らない世代にも、幅広く再認識してもらえたのではないかと思います。

参加者Voice

昔の民具・道具を見せていただき勉強になりました。また、音の出る農具にはびっくりしました。素晴らしいアイデアと制作、音色、情熱すべてに感動しました。楽しませていただき、ありがとうございました。(70代)



～洗心庵からのお知らせ～ 庭園と呈茶を楽しむ会

一般向け

紅葉の深まりゆく秋の庭園の鑑賞とともに、館内の椅子に座って抹茶をいただき、ゆったりした時間を過ごしませんか。秋開催の恒例の抹茶のおもてなしです。庭園散策も一緒にどうぞ。

日 時 10月27日(日) 10:00～15:00
(先着40名・お菓子が無くなり次第終了)
会 場 洗心庵 多目的ホール
料 金 500円(菓子付)
申込み 不要
問合せ 洗心庵(下記)へ

第11回 洗心庵写真コンテスト

一般及び18歳以下

第11回洗心庵写真コンテストは、一般の部とU-18の部との2部構成で開催しています。春夏秋冬の四季ごとの選考となります。洗心庵での催しや人物、庭園の情景など写真に写してみませんか。スマートフォンで撮影した写真でも応募可能です。お気軽にご応募ください(入園・入館無料)。詳しくはQRコードよりご確認ください。



洗心庵HP

応募期間 11月1日(金)～令和7年1月31日(金)〈当日必着〉
テーマ 春夏秋冬の洗心庵
(洗心庵の庭園・建物内で撮影した作品)
応募規定 A4サイズ又は四ツ切のみ(組み写真は不可)
応募点数 一人一般の部2作品、U-18の部1作品
表彰式 令和7年3月中旬ごろ 洗心庵多目的ホールにて
問合せ 洗心庵(下記)へ

社会教育関係職員 スキルアップセミナー

関係者向け

公民館やコミセンなど、社会教育の現場で役立つスキルを学びます。県内2会場で開催。テーマは『防災・減災』を予定しています。

庄内会場 9月13日(金) 余目第4まちづくりセンター
村山会場 9月20日(金) 東根市西部防災センター
詳細は後日HPでお知らせいたします。
問合せ 山形県生涯学習センター(下記)へ

高齢者生きがいづくり・ 生活支援活動人材育成等事業 生きがい支え合いフォーラム

一般向け

関係者向け

人生100年時代どんな地域でどんなふう
に暮らしたいですか?住み慣れた地域で安心
して暮らしていくために、高齢者の生きがい
づくりや地域の支え合い活動について学んでみませんか?
詳細はチラシやHPにてご確認ください!各定員100名



HP

【村山会場】8月31日(土) 13時～16時20分
遊学館(山形市緑町1-2-36)・オンライン
【庄内会場】9月1日(日) 13時～16時20分
子育て交流施設テオトル(三川町押切新田字桜木8-1)
内 容 基調講演「シニアが生み出す、三方よし!ウェ
ルビーイングな地域づくり」
藤原佳典氏(東京都健康長寿医療センター研究所副所長)
事例提供「生きがい支え合い交流あふれるまちに福来る!」
堀川敬子氏(逢いの蔵共同代表)
伊藤新一氏(西遊佐地区まちづくりの会会長)

受講料 無料
申込み 山形県生涯学習センター(下記)へ8月24日(土)までに申し込み

令和6年度「山形学」講座

一般向け

今年度の「山形学」講座は秋に開催いたします!今
年度より3年間、山形の農業について学びます。詳細
は決まり次第HPに掲載します。

問合せ 山形県生涯学習センター(下記)へ

メールマガジン読者募集中!

「やまがた〈生涯学習・芸術文化〉総合
情報マガジン」(無料)は、山形県内の生
涯学習や芸術文化に関する情報を毎月2回
お届けしています!メールアドレスは本財
団HPより登録できます。



<https://www.gakushubunka.jp/mailmagazine/>

登録はこちらから!

編集 後記

新緑あふれる5月初旬に鳥海高原の自然観察
会に行ってきました。2時間トレッキングをしなが
らブナ、クロモジ、オクチョウジサクラ、ミズバショ
ウなどたくさんの植物を観察し、春の色と香りを満喫。観察会
の途中、今回の「たからびと」の清原さんが捕まえたシマヘビ
に触らせてもらいました。初めて触ったヘビはしっかりと柔ら
かい感触でした。(R)

読者プレゼント

「生涯学習やまがた」をご覧いただいている皆さまに、感謝の気
持ちは込めて、抽選で3名様へ遊学館ブックス最新刊『食』をめぐ
る山形の地域課題』をプレゼント!左記の山形県生涯学習セン
ター広報紙担当あてに【①お名前・ご住所②入手場所③興味を持
たれた記事④内容についてのご感想・ご意見・ご要望】を添えて、
はがき・メール・FAXでご応募ください!締め切りは8月末です。

編集発行 (公財)山形県生涯学習文化財団 令和6年7月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町1-2-36 [遊学館]
TEL 023-625-6411 (貸館専用TEL 023-676-7182) FAX 023-625-6415
E-mail yama@gakushubunka.jp

URL <https://www.gakushubunka.jp/yugakukan/>

■開館時間 9:00～21:00 [夜間利用が無い場合は20:00まで]

■休館日 第1・3・5月曜日、第3日曜日、年末年始

洗心庵 [山形県生涯学習センター分館] 〒990-0041 山形市緑町1-4-28
TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

■開館時間 9:00～21:00 [夜間利用が無い場合は19:00まで]

[12月1日～3月31日までは夜間利用が無い場合は17:00まで]

■休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

「生涯学習やまがた」
バックナンバーはこちらから!

